

町内会加入促進条例の効果的導入を

町長 町内会連合会や町内会からヒアリングし精査していく

木村

急速にアパート等がふえ、

町民の居住環境が変化している。地域の環境整備や町内会活動にとって、後押しとなる条例が望まれている。

- ① 条例の主たる目的は、
- ② アパート等の集合住宅の対応方法は、
- ③ 条例に強制力はあるか。

町長

① 町内会等、地域住民、事業者・住宅関連事業者の定義や役割を明確にし、町内会等への加入・参加促進、安心して快適に暮らすことができる地域社



木村 聖子 議員

町長 本来は9月に議会提案の予定だったが、行政の立ち位置・役割についてもっと入れるべきなど意見があり、町内会連合会や町内会からヒアリングをし

会の実現に寄与を目的とする。

② 所有者や出資者は町内会等への加入・参加促進施策に協力し、入居者は町内会等の情報を提供し、地域住民との良好な近隣関係が保持されるよう努めるとする。

③ 強制は法的に議論があるので、努力義務とする。

木村

町内会等を経験している内容

ではない印象。アパートが市街地に多く建設され、町内会の方は町内会運営に不安を持っている。もう少し明確な加入促進の提示ができないか。

ながら精査をし、もう少し踏み込んで、文言整理をしていきたい。



急増するアパート建設

「女性の健康包括支援」について

木村

女性は早ければ小学校4年生頃からホルモンの影響を受け、エストロゲンが減少して引き起こす病気を考える

と老齢期まで50年以上、ホルモンの増減による病いと向かい合わせとなる。本町の女性特有のガン検診受診率が低い。小さいころからの教育も大事になる。

ライフステージごとの施策により、健康的な社会での活躍が期待できるが、当町の方針や考えを伺う。

町長

若い世代の子宮がん検診や各種健康診断、がん検診の受診率向上を目指し、より俱知安町の女性が健康で生き生きと過ごせるように努力していきたい。

福祉医療課 筋力低下を防ぐ運動の必要

性など骨粗鬆症の検診では特に力を入れて指導等しているが、女性に特化した健康相談や健康教育という分野は、まだ少し弱い。子どものころから思春期をとおして、自分の体を大事にすることや検診の重要性などの教育が必要と感じている。高校生に検診の必要性などを強く訴えている。



一般質問 木村 聖子